

残存型枠施工

フレックス**笠コン**ブロック

塩害対策適用事例

- ・ 従来現場打ちであった河川矢板護岸工の笠コンクリートを二次製品化。
- ・ 施工の安全性の確保。製品の大型化・機械施工。

兵庫県 洲本土木事務所 (洲本港沈下対策工事)



施工後



特徴

1. 笠コン底面位置が平水位でも施工可能なため、鋼矢板の長さを短く設計できるので、経済的です。
2. 現場打ち施工における配筋作業、矢板凹凸形状にあわせた型枠製作と吊り型枠の手間、養生後の脱型作業などの手間が一切かかりません。

残存型枠 (底板プレート) の開発

1. 底板プレートは軽量で機能性に優れ、セットが容易で鋼矢板の打ち込み精度に左右されません。
2. 中詰コンクリート養生後の脱型が一切不要です。

塩害対策

塩害対策として笠コンブロックの鉄筋純かぶりを **70mm** としました。

<参考資料>

「港湾の施設の技術上の基準・同解説 (下巻)」平成 19年 7月

カチオン電着塗装

水溶性塗料を入れた槽に被塗物を浸漬し、直流電流を流し電着させる方法です。カチオン電着塗装は非常に高い防錆性能を有します。

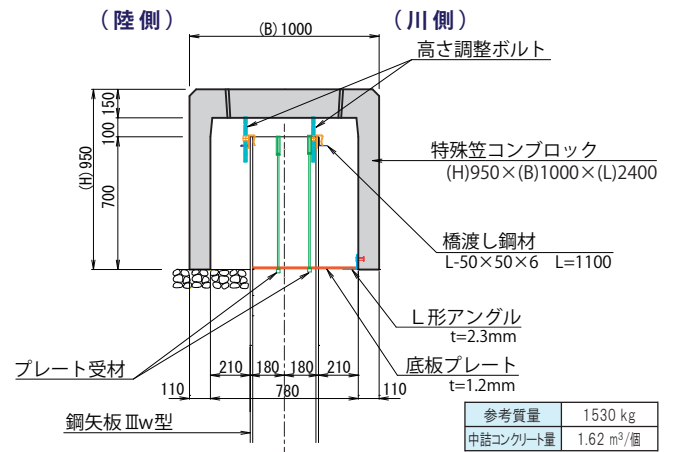
※下記部材はカチオン電着塗装仕上げです。

- ・ 底板プレート
- ・ L形アングル
- ・ プレート受材

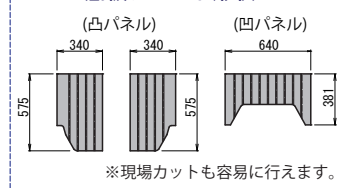


底板プレート塗装済み (色: 黒)

側面図



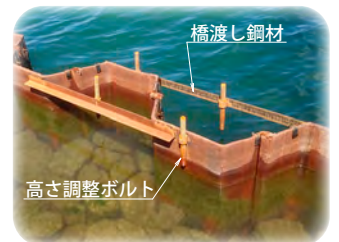
底板プレート形状



標準規格

高さ (H)	幅 (B)	長さ (L)
500 ~ 700	700	2000
500 ~ 800	800	2000

※標準規格以外でも、上記事例のように対応可能な場合もございますので、お問合せください。



施工状況



①施工前



②プレート受材設置



③高さ調整ボルト設置



④笠コンブロック布設



※満潮時



※水中コンクリート打設



※ブロック開口部よりセット
(参考写真)



⑤底板プレート設置(参考写真)

※カチオン電着塗装は行っておりません。



⑥中詰コンクリート打設



⑦施工完了